

ゴムとラバーはどう違う？

(ゴムという言葉の由来)

日本語でゴムという言葉は大きく次の3種の材料を表します。1. 通常は、弾性ゴムつまりゴム製品およびその原料ゴムをさします。2. ガムシロップのような高分子多糖類。水に溶けますがアルコールには不溶です。食べ物の増粘剤や糊などに使われます。切手の裏糊の原料であるアラビアゴム(Arabic gum)が有名です。3. チューインガムのベースとなるガムでチクルがよく知られています。この種のガムは水に不溶でアルコールに可溶です。英語では1. をラバー(rubber), 2. と3. をガム(gum)といいます。

Rubberは1770年イギリスの科学者J. プリーストリが生ゴムでこする(rub)と鉛筆書きの字を消すことができる、

と報告したことに発するとされています。弾性ゴムを表すドイツ語Kautsuhuk, およびフランス語caoutchoucは、アマゾン流域でのcaa(木)とo-chu(涙を流す)という語に由来しています。

歴史上日本に最初に登場するのはアラビアゴムで、これは生薬としてすでに1631年には市販されていた記録があるそうです。gumがゴムと発音されたのでしょうか。最初に輸入された弾性ゴムは1845年の正月にペリーが将軍に献上した品物の一つである電線の被服材とされています。この時、弾性ゴムはアラビアゴムと同じ仲間であるという誤った考えがあったため、どちらもゴムと表現してしまったというわけです。

(東海ゴム工業(株) 長野悦子)